

能動的に勉強することの大切さ

能動的に勉強することが大切だとガイダンスでお話しましたが、個人的なエピソードを紹介します。

研修医になりたてで初めて外科をローテーションした頃の話です。

外科初日は朝6時前出勤し病棟業務後、手術に入り終わったのは夜の22~23時頃だったと思います（帰宅したのが24時前後だったので）。

帰り際に外科の上司から、「明日はCVポート増設の手術をやる。お前も手伝ってもらうから準備してこい。」と伝えられました。

CVポートというのは医師国家試験の範囲外であり、残念ながら学生時代に詳しく勉強したことはありませんでした。

初日から長時間だったため疲労していたうえ、翌日も朝6時出勤だったので睡眠時間を考えると準備の時間はあまりなく、とりあえずどういった目的で行うか、どんな患者さんか、大まかな処置の手順について勉強していきました。

翌日、手術に入ると、その上司からいきなり「じゃあやってみろ」と言われました。まだメスすら持ったことがない頃でしたので、「えっ!？」と戸惑ってしまい、「どうしたらいいですか」と尋ねてしまいました。

すると「準備してきたはずだからできるだろ」「手順もわからないなら出て行け!」と怒鳴られ手術室を追い出されました。

なんとか挽回しなければ・・・と思ったので、（手術に入れなくなったため幸い時間ができたため）、その上司が担当している患者さんの情報をすべて整理した上で回診し現状の把握とプロブレムリストを作成し手術後にその上司のもとへ報告しました。

そこで上司が説明してくれたのは、「もちろん研修医だからいきなり一人で手術をさせるつもりはないけれど、手伝ってもらうためには当然手術の一連の流れがわかっていないといけない。せめて最初の出だしくらいは準備してイメージしてから手術に入るように」ということでした。

また、これは別の科でしたが、ある処置について「～～ってどういう処置なんですか」と尋ねた後輩はその後二度とその科では処置に入れてもらえなかったそうです。

上司の判断は当然です。調べることもできない、準備もできない研修医が少しでもその場にいることは患者さんにとって不利益を生じる危険があるからです。

医師に限らず、能動的に勉強するとはどういうことか、また人に質問するからには、まずは自分が出来る限り勉強する必要があるということです。当然勉強する内容（本など）やどうやって勉強すればよいかなども自分で考える必要があります。そして1回調べてわからなければ、当然ですがわかるまで5冊、10冊といくつかの文献を自分で探し勉強する必要があります。

その上で、どこがわからないのかを明確にして質問するようにしないと相手に対して失礼にあたります。また自分で出来る限り勉強していないと、せっかく教えてもらっても結局浅い理解しか得られません。能動的に学び、よい質問ができる力をつけていってください。